

2 取り組むのは、“私”です

SDGsに取り組むのは、私たち一人ひとりです。

個人だけではなく、国連や国（政府）、県や市町村、民間企業や金融機関、さまざまな団体・組織などもSDGsに取り組む主役です。

2030年のSDGs達成にむけて取り組むことは、私たちの「今」と「未来」を守るために必要な行動であり、私たち一人ひとりの行動が「今」求められています。

“地球はこのままでは持たない——という危機を解決するために”という大きすぎて自分ごととして考えにくいですが、一人ひとりが取り組むことが大きな課題達成につながります



3 SDGsは17のゴール（目標）があります

2030年の目標達成まで10年をきっています！



SDGsは17のゴール（目標）があります（2ページ中央の17色のイラスト）。

例えば、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」に関心をもっているけれど、“私は何をどうしたらいいんだろう？”と思われることがあるかもしれません。

SDGsでは、17のゴールを達成するために、具体的な取組が示された169のターゲットとその目標の達成度を測るために232の指標が設けられています。



▲外務省HP

17のゴール、169のターゲット、232の評価指標は、外務省HPでもご覧いただけます

例	ゴール	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
	ターゲット 6.1	2030年までに、全ての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する。
	指標 6.1.1	安全に管理された飲料水サービスを利用する人口の割合

ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」に関連した問題です



Q 水道の水をそのまま飲む国は、何カ国あると思いますか？

A 答えは、日本を含めて12カ国です。「え！もっとあるはず！」と思われる方もいるのではないのでしょうか。なお、そのまま飲めるけれど注意が必要な国も32カ国しかありません。

国土交通省「令和3年版日本の水資源の現況」(https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk2_000028.html)をもとに作成



エス・ディー・ジーズ

SDGs

みんなで取り組もう



持続可能な社会を実現するために

【SDGs】とは、環境破壊や温暖化、紛争、貧困など、地球のさまざまな危機や問題について、世界の人々で課題に取り組み解決しようと決めた目標のことです。

「SDGsって何?」「結局、何をしたらいいの?」と思われるSDGsですが、実は私たちの日常生活のなかで行動できるものがたくさんあります。SDGsについて知って一緒に取り組んでみませんか?

1 そもそも「SDGs」って?



Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称です。

SDGs (持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連が決めた世界を変えるための目標です。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」などの17のゴール(目標)があります。

2030年までの目標達成を目指し「誰一人取り残さない」ことが宣言されています。



気候変動や貧困、不平等、資源の枯渇など、地球規模のさまざまな課題に人類が直面している今、このままでは地球で安定した暮らしができなくなるといわれています。

これからも世界を持続させ、私たちやその次の世代が豊かに暮らし続けていくためには、経済、社会、環境が調和する「持続可能な」世界への大胆な変化が求められています。

目標にある「貧困をなくそう」や「飢餓をゼロに」といった言葉から、SDGsは発展途上国に対する開発支援と思えるかもしれませんが、しかし、厚生労働省が2018年に行った調査によると、日本では子どもの7人に1人が相対的貧困にあるとされているなど、SDGsは日本を含めた先進国にも関係する多くの課題を含んでいます。

気候変動の対策や平和の確保を行わずに飢餓ゼロは達成できないように、目標は互いに関連しているため、17の目標は総合的に取り組んでいく必要があります。

17の目標全てに取り組むと思うと大変ですが、SDGsは1つの目標に取り組むことで、それが他の目標の取組にもなり、総合的に進めていくことにつながります。